

s. house

30.Sep.2020.

ogawaa design studio

Tenma 天満 食と歴史と活気が密集するまち

<変遷>

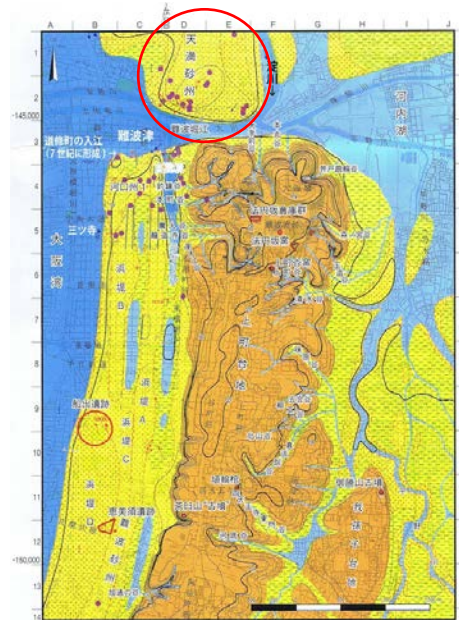
- ・旧淀川（大川）が曲流する北西側の地域を指し、現在の町名では天満、東天満、紅梅町、松ヶ枝町、天満橋、同心、与力町、天神橋、末広町、南森町、天神西町、菅原町、西天満、南扇町などにあたる。（計画地は天神橋）
天満の地名は当地に鎮座する大阪天満宮の転訛による。
- ・日本三大祭のひとつに数えられる**天神祭**、南端の大川に架かる浪華三大橋（天満橋・天神橋・難波橋）で知られる。
- ・大川を挟んで上町大地の北に位置する天満は、天満砂堆と呼ばれる微高地の南端にあたり、**淀川が氾濫しても水没を免れる古代より人が住む平地（難波津）**として古い歴史をもっている。
- ・もとは1585年に建立された**天満本願寺の寺内町**であったが、秀吉は天満を船運の拠点にしようと考えており、その後船場に移った生魚商・塩干魚商らが居住していた。江戸時代には大坂三郷の1つ「天満組」と呼ばれていた。
- ・1653年、京橋片原町から天満の淀川沿岸に青物市場が移転し「**天満青物市場**」が誕生、長年大坂の青果取引を独占する官許市場として繁栄し、周囲には野菜などに関わる商家が多く集まった。（「**天下の台所**」**食の都・大坂の象徴**）
- ・1870年大川西岸部に造幣局の本局が置かれ、関連して中小の金属工場やガラス工場、紡績工場などが周辺に誕生。特にガラスに関しては、東京と並ぶ**ガラス産業発祥の地**となった（天満切子等の店が現在も活動）。
- ・また、大阪天満宮周辺は劇場や寄席が並ぶ**繁華街**となり、商人や職人でにぎわった（2006年繁昌亭オープンへ）。
- ・以後10909年北の大火、1945年大阪大空襲で天満のほとんどが炎上する被害を出す、そのつど復興されている。
- ・1931年に天満青物市場の大阪市中央卸売市場への集約、大阪大空襲による消失、戦後の経済情勢の変化やオフィス化、地上げなどにより、劇場街も消え、焼け残った町家も取り壊され、商家が立ち並んだ時代の空気は薄れた。
- ・1968年には天満堀川が埋め立てられ、阪神高速12号守口線が建設。1978年には大幅な町名改編が実施され、多くの町名が姿を消す。

<天神橋筋商店街>

- ・大阪天満宮からJR天満駅まで南北に通る**日本一長い商店街**。もとは南の大川、北の淀川から「**大阪天満宮**」の参道だった通りに店が集まり、人が集まった結果できた長い商店街に多くに店が軒を連ねる。
- ・天一～天三は江戸時代、それ以降は明治時代にできた為、もとは畦道だった天五から道幅が狭くなる。

<裏天満>

- ・JR天満駅周辺“安くて旨くておもしろい”店が密集する大阪で最もグルメな街の1つ。天満市場・場外市場の空き店舗を利用して2013年頃から発展したため、テラス席がビニールシートで仕切られる**屋台の集積**のような街並み。（ピニシー通り）



6～7世紀の大阪



浪速天満祭
(天神祭)



天神橋筋商店街



裏天満+提灯通り



天満市場



大阪天満宮

天満天神繁昌亭



current status of building

- ・現建屋は、鉄骨造・ALC外壁による5階建店舗付住宅。
- ・昭和54年竣工・築41年の物件で、1階店舗・蔵跡（現状倉庫利用）、2階居間＋台所、3階寝室＋浴室、4階寝室、5階納戸とバルコニーとなっているが、4・5階は後年増築が行われている（時期不明）。
- ・北側は前面道路により採光が担保されているが、南側は4階の途中程度まで隣接建物の壁面により採光は期待できない。
- ・低層部は立地上店舗/オフィス利用に向いている。
- ・準防火地域にある為耐火建築物であるが、5階建にして縦穴区画が存在しない理由は不明。
- ・床はALC、増築部は詳細不明だがスパンドレル等による軽量の構造にて建設されている。
- ・祖母と両親が不在となった今、忙しい世帯主は空間をフルに使っていない状況。



ガラクタのような家

がらくた とは

ウィキペディア他より

がらくた（ガラクタ、我楽多、瓦落多、瓦落苦多）は使い道のない、役に立たないもののことである。値打ちのない雑多な品物や道具類などをいう。しかし後述のとおり、視点によっては価値を見いだされる場合もある。

<語源>

「がら」は「がらがら」という音、「くた」は「あくた」（芥）の略又は「朽ち」。



<別の視点>

・収集趣味

骨董品のように、がらくたに分類された古物に価値を見出した収集家によってコレクションの対象とされることがある。

・リユース

自動車や重機、電子機器などのがらくたのうち、動作する可能性がある部品は「ジャンク品」として再販売されることがある。

・リサイクル

スクラップ等の産業廃棄物（廃金属）もがらくたに分類されるが、リサイクルの観点からは重要かつ再生可能な資材へと変わる。

近年はステンレス、鋼鉄といった材料に、再生市場のニーズが高まっている。

携帯電話など電子機器のがらくたは、電子回路に希少金属が含まれるため、これを収集してリサイクルするために、都市鉱山という概念が生まれている。

<使い方・例文>

・あなたにとってガラクタでも彼にとって立派な宝物なのだ。

・骨董品の収集が趣味の祖父は、いつも祖母からガラクタばかり買うなど怒られている。

・近所の使い道がわからないものばかり置いているリサイクルショップは、通称ガラクタ屋と呼ばれている。

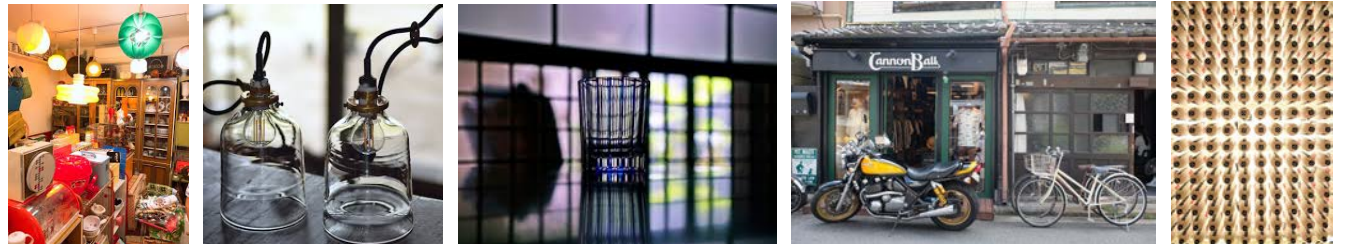


「密集する」デザイン

ガラクタのような家

ぐちゃぐちゃした昭和の風景にあるディテールの積み重なり、スケール感を継承する

task: ありふれた材料を組合せながら新鮮で懐かしい印象を形づくる



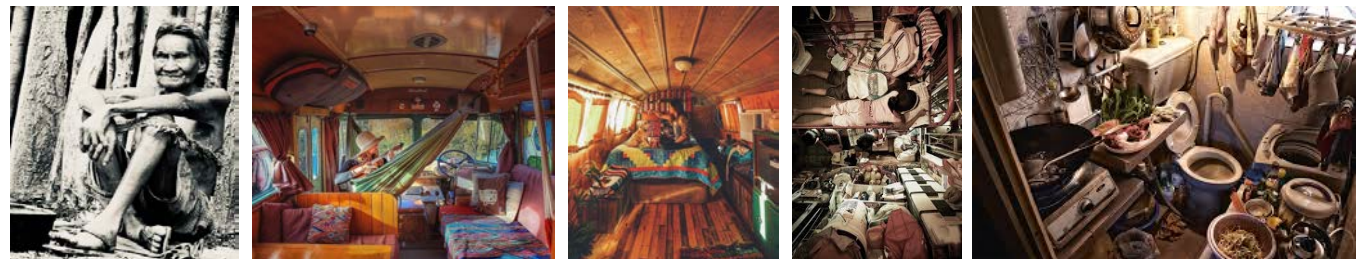
多様な素材+色+光のパッチワークから何となく全体像が成立する、街の延長のような空間とする

task: 悪趣味ギリギリのハイセンスを狙う



極小平面に異なる機能を複数配置し、新鮮さと居心地の良さを両立する生活環境を実現する

task: 極限まで圧縮・単純化した空間を重ね使い



「密集する」デザイン

ガラクタのような家

night-element



「犇めき合う」デザイン

ガラクタのような家

(もともと5階建であった建屋の断面方向のゆとりを活かして)
店舗から住居へとゆるやかに変化しながら連続する空間構成とし、様々な場面が積層し、つながる環境を築く。

task: 刺激を与え合い新たなライフスタイルを生む



街と建築が相互補完し合い新たな関係を築くことで、いつもの風景や冴えない生活の1コマを垢抜けたものへと変えていく

task: 建築と街が引き立て合う関係をつくる



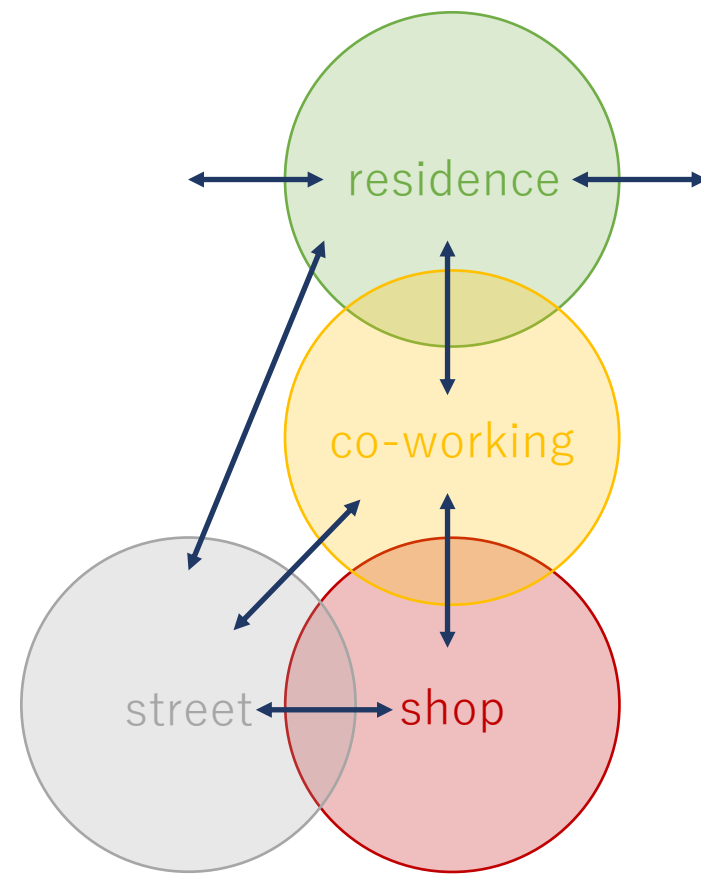
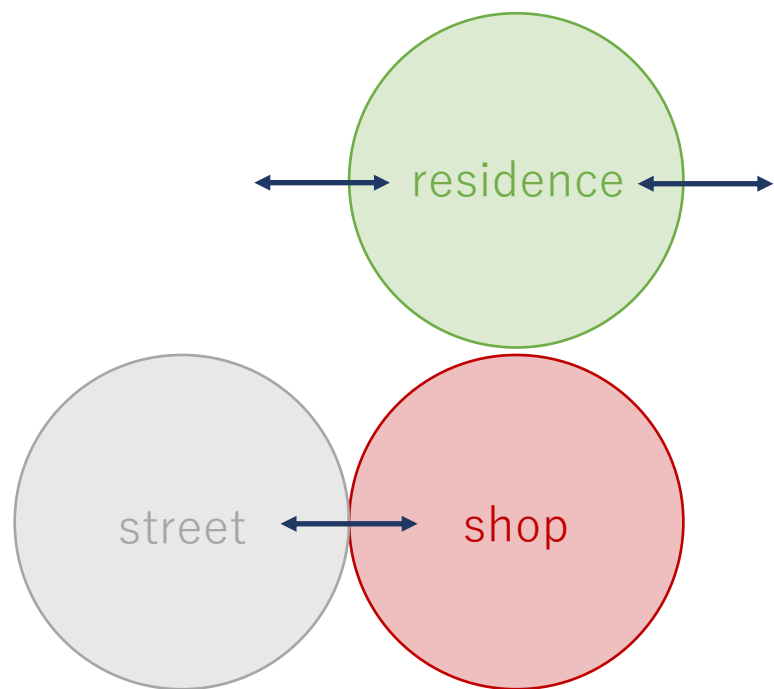
店舗と住居の何れにも受け入れられるデザインとすることで、双方の利用者が建屋全体を使う感覚を覚える建築とする

task: あらゆる分野を横断する自由な価値を提供する



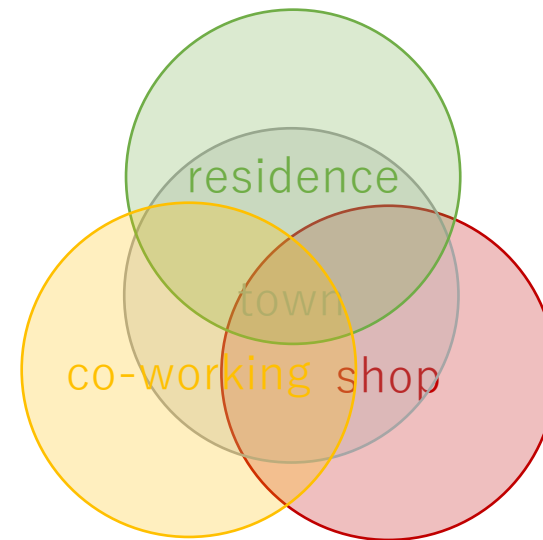
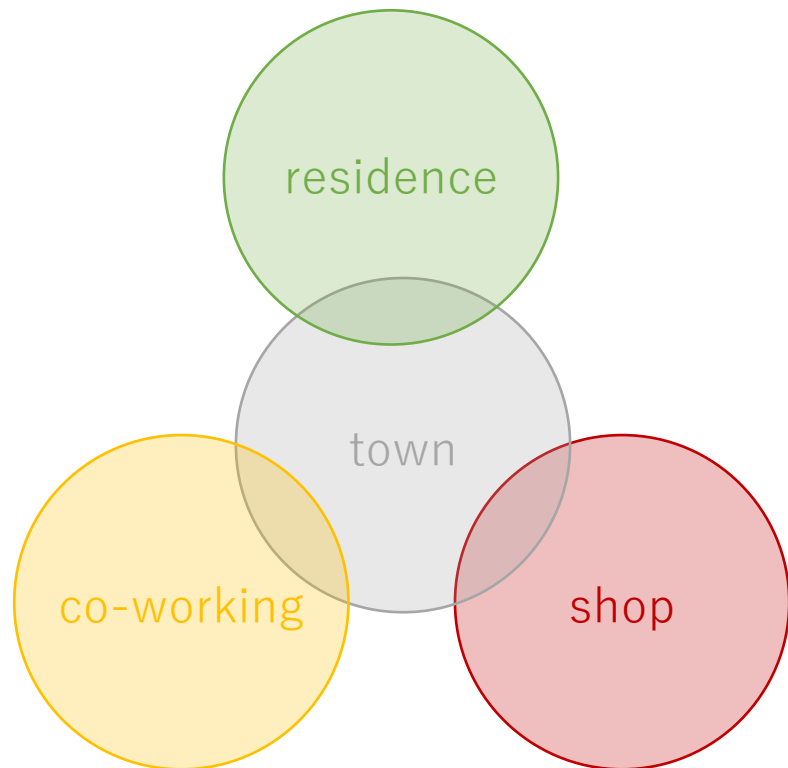
「犇めき合う」デザイン

ガラクタのような家



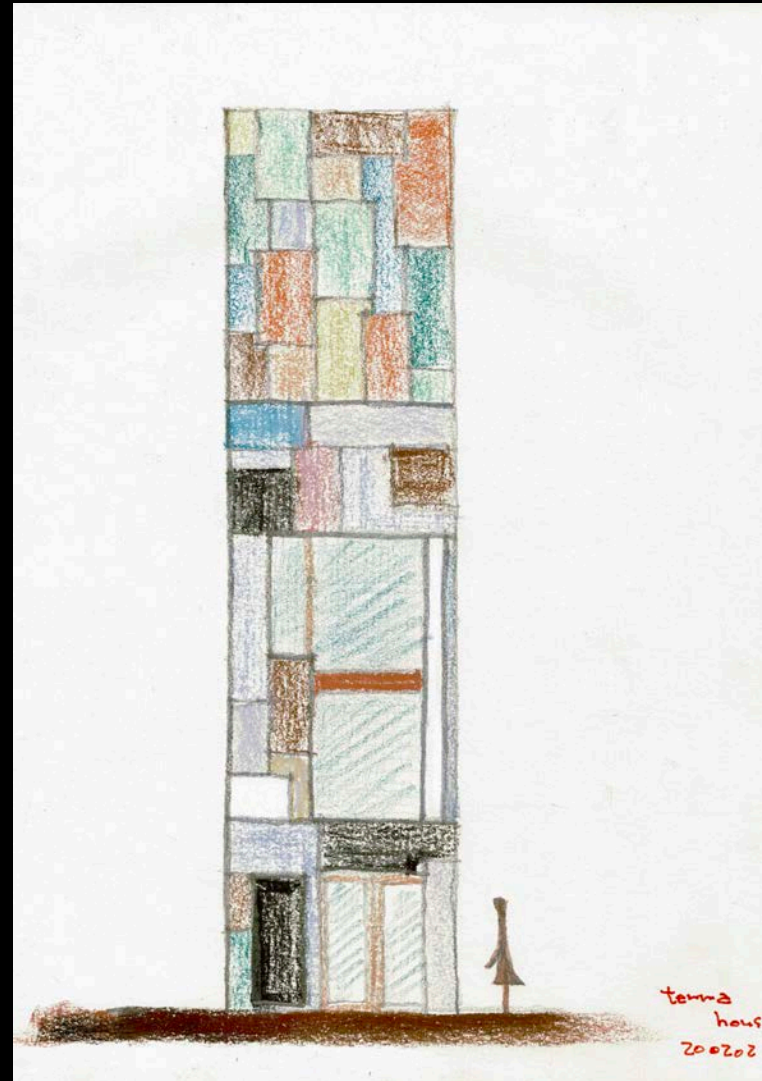
「犇めき合う」デザイン

ガラクタのような家

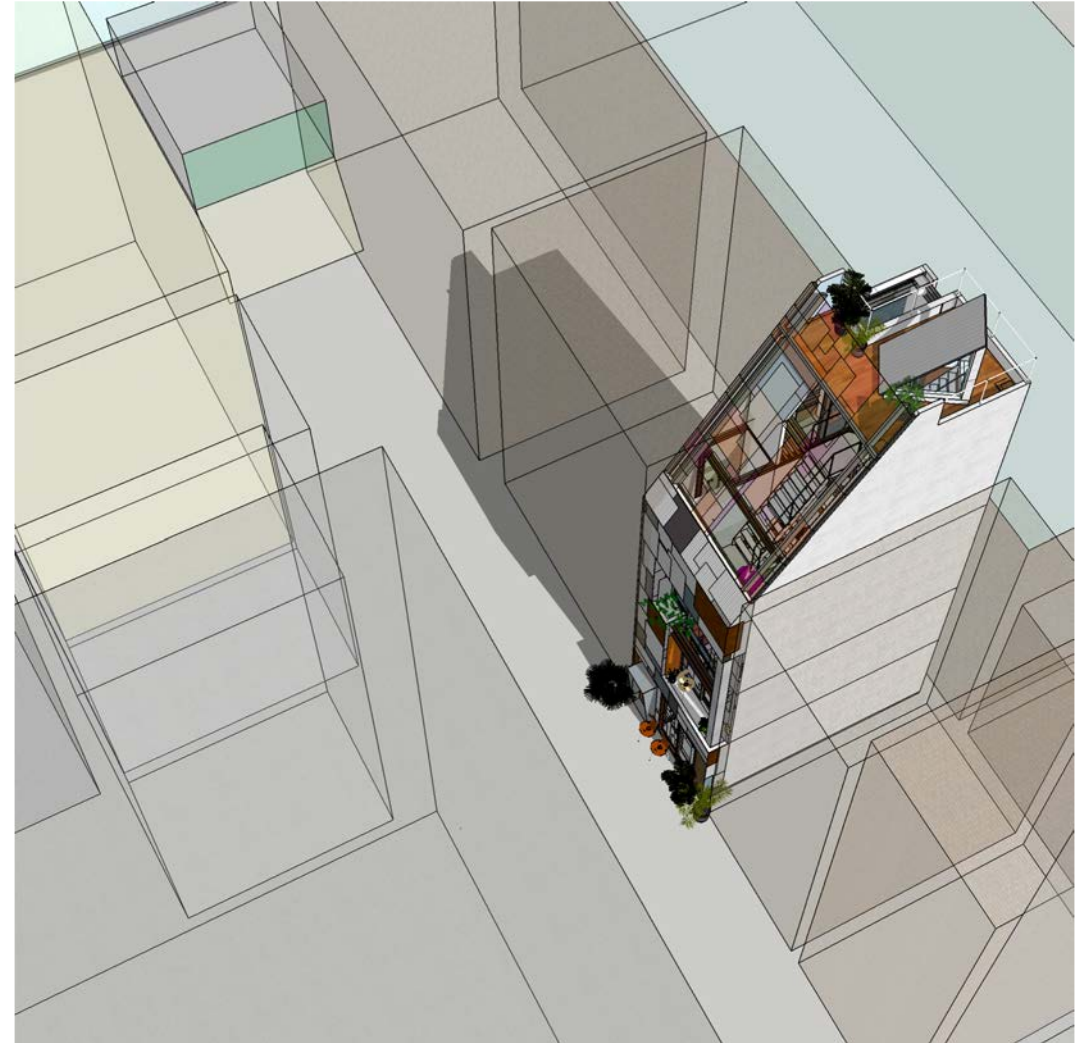


「密集」し「犇めき合う」デザイン

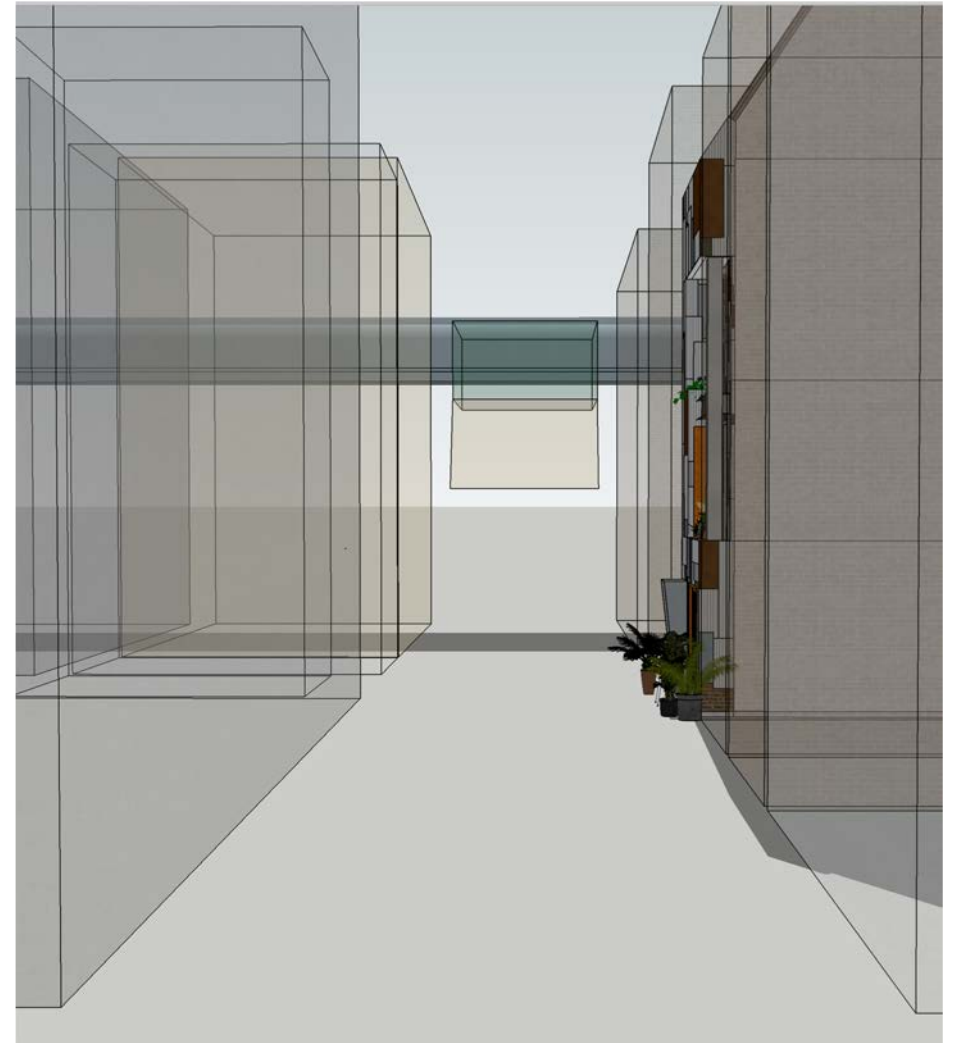
ガラクタのような家



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



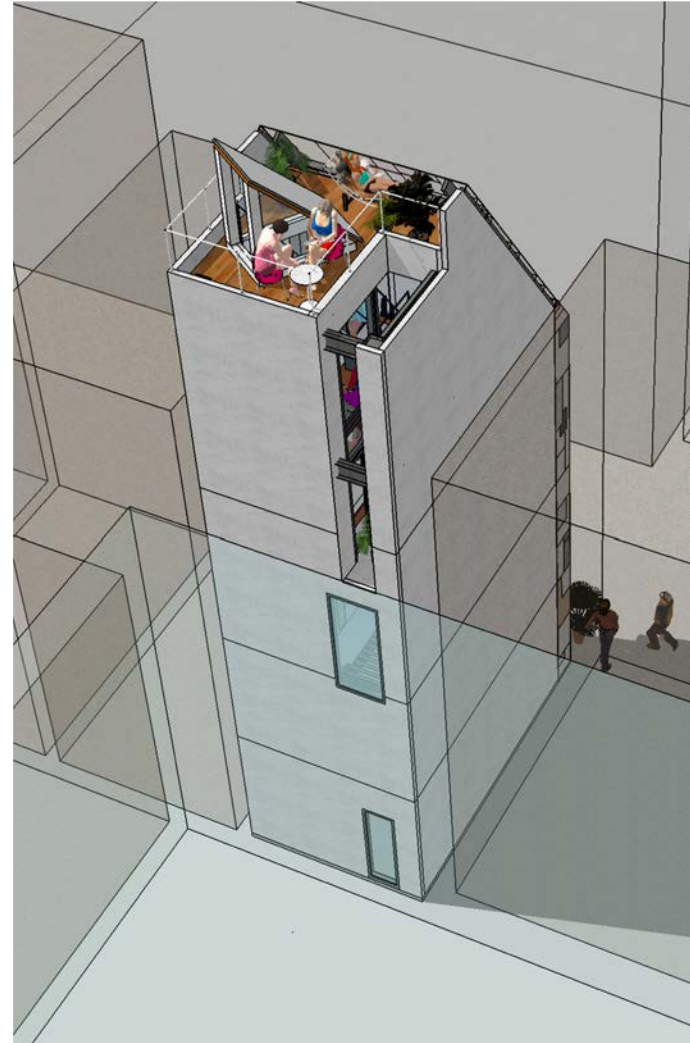
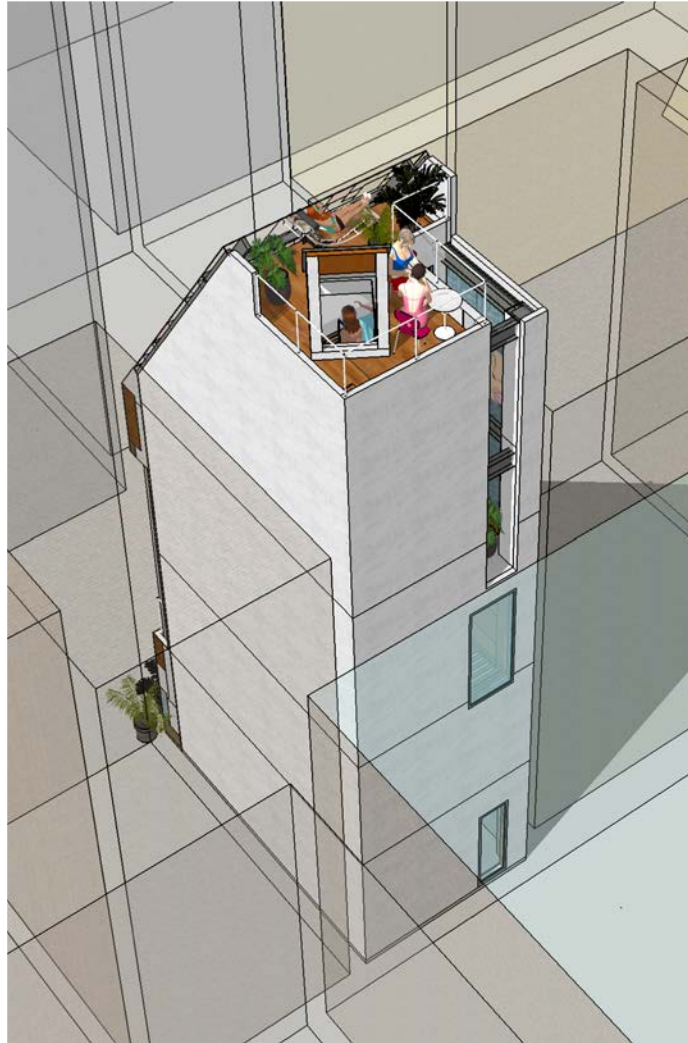
ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model



ガラクタのような家 concept model

